

第31回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦

開催日時 6月16日(土)

会場 阿須運動公園ホッケー場・駿河台大学ホッケー場

天候 雨

【全試合結果】

<阿須運動公園ホッケー場>

第1試合	女子 1回戦	聖泉大学	10	{ 5 - 0 }	0	北海道大学
9:30						
第2試合	女子 1回戦	早稲田大学	1	{ 1 - 0 }	0	同志社大学
11:10						
第3試合	男子 1回戦	山梨学院大学	2	{ 2 - 1 }	1	東京農業大学
12:50						
第4試合	男子 1回戦	関西学院大学	4	{ 3 - 0 }	1	聖泉大学
14:30						
第5試合	男子 東西交流戦	西日本選抜	1	{ 1 - 2 }	4	東日本選抜
16:10						

<駿河台大学ホッケー場>

第1試合	女子 1回戦	駿河台大学	5	{ 3 - 0 }	0	東京農業大学
9:30						
第2試合	女子 1回戦	慶應義塾大学	2	{ 1 - 2 }	5	関西学院大学
11:10						
第3試合	男子 1回戦	富士大学	2	{ 0 - 3 }	8	明治大学
12:50						
第4試合	男子 1回戦	東京農業大学 生物産業学部	1	{ 0 - 2 }	6	慶應義塾大学
14:30						
第5試合	女子 東西交流戦	西日本選抜	5	{ 1 - 0 }	0	東日本選抜
16:10						

【各試合の結果・詳細】

阿須・第1試合 女子1回戦

聖泉大学 10 { 5 - 0 } 0 北海道大学

<得点>
 聖泉大学 5分#9松中 14分#28永野 25分#8脇本 30分#8脇本 35分#20土井 43分#6山中 48分#9松中
 北海道大学 56分#28永野 63分#18月田 65分#5市橋

北海道大学

<戦評>

梅雨空で小雨のなか、聖泉大学のドリブルによって試合が開始された。開始直後から持ち前の個人技と走力を駆使して北海道大学に勢いよく攻め込み、北海道大学は防戦を強いられるも所々で抑えて得点を許さない。北海道大学は防戦からボールを上手く繋いで、上手くポイントを獲得してラインを徐々に上げて攻め込んでいく。前半5分、北海道大学のフリーヒットを聖泉#6山中がカットし、サークル内へドリブルからのパスボールを聖泉#9松中がダイレクトヒットで決めて先制点を挙げた。その後は、聖泉大学がボール回してフィールドを広く活用して試合を有利に進める。前半15分に聖泉#28永野がFG、25分には聖泉#8脇本がリバウンドを決め、30分に#28永野がFGで得点を重ねていく、そして前半終了間際に獲得したPCをしっかりと決めて、聖泉大学が5点リードで折り返す。後半へ入ると北海道大学に疲れが見え始め、聖泉大学が後半8分にPCで聖泉#6山中が、後半13分にもPCで聖泉#9松中が決める。北海道大学も何度か攻め込むも疲れが見え中々ボールを繋ぐことが出来ない。後半21分には聖泉#28永野がFG、後半28分に聖泉#18月田がFGを決める。後半30分には聖泉#5市橋がスピードドリブルでサークル内に切り込み、シュートを決めて10点目を挙げて、その後は得点が動くことなく10-0で聖泉大学が快勝して2回戦進出を決めた。

TO	駒田文雄	アンパイア	谷川昌子
ジャッジ	寺田一夫		中込真里奈

阿須・第2試合 女子1回戦

早稲田大学 1 { 1 - 0 } 0 同志社大学

<得点>
 早稲田 25分#4八木澤

同志社

<戦評>

早朝から降っていた小雨が止み始めた頃、早稲田大学のセンターパスにより試合が開始した。始めから早稲田大学と同志社大学が共に個人技とパスワークを駆使した激しい攻防が展開される。ロングパスがなかなか通らず、中盤でのボールの奪い合いが多くなり、互いにFWへボールが繋がらない試合運びとなった。前半25分、早稲田大学がPCを獲得すると早稲田#4八木澤がスピードのあるプッシュシュートを抜群なコントロールで決めて遂に試合の均衡を破った。その後は、早稲田大学がやや押し気味に試合が進んでいくも、1-0で早稲田大学が1点リードで試合を折り返す。後半になってお互いの攻防はむしろ激しさが増した。得点を挙げたい同志社大学はラインを上げるようになると、早稲田大学のFWにボールが繋がるようになり、サークル付近での激しい攻防が繰り返された。同志社大学も人数を掛けたカウンターで攻め込むが得点には結び付かない。そのままの調子で時間が進んで行くが、ラスト5分、同志社大学が早稲田大学のサークルに襲いかかる場面が多くなるが、なかなかサークル内にボールが繋がらず、そのまま得点が動くことなく1-0で早稲田大学が接戦を制して2回戦へと駒を進めた。

TO	野澤光代	アンパイア	我妻順子
ジャッジ	鈴木靖弘		谷文太郎

阿須・第3試合 男子1回戦

山梨学院大学 2 { 2 - 1 } 1 東京農業大学

<得点>
 山梨学院 9分#7村田 32分#9村田
 東京農業 35分#1大田

<戦評>

梅雨空の肌寒い天候の元で、山梨学院大学のセンターパスにより試合が開始した。開始早々、互いにスピーディーで勢いあるぶつかり合いが続いた。前半9分、山梨学院#7村田がサークル内で巧みなドリブルでディフェンダーをかわしてゴールに押し込み先制点を挙げた。その後は、山梨学院が押すゲーム展開が続いて、農大は防戦からカウンターで対抗した。そして、前半32分に山梨学院の打ち込みからのこぼれ球を山梨学院#9原田がリバースヒットを豪快に決めて使いてんを挙げる。その後は山梨学院がフィールドを広く活用したボール回しをして、そのまま前半終了かと思われたが、前半終了間際にPCを獲得して、農大#1大田がフリックを決めスコア2-1で試合を折り返す。後半が農大のセンターパスにより山梨学院1点リードの状態開幕を開ける。早いうちに追い付き逆転したい農大、リードを守り広げたい山梨学院、双方気合いの入ったプレーを見せ拮抗した試合展開が続く。互いに卓越したプレーを魅せ観客を沸かすが均衡がくずれることなく残り時間がわずかになる。そして東京農業のカウンターからの打ち込みダイビングタッチしあわや同点弾かと思いきや僅かに枠を外れグラウンドに歓声と溜め息が漏れる。そして山梨学院がリードを守りきり2-1でホーンがなり響く。山梨学院が2回戦に駒を進めた。

TO	越湖 隆一	アンパイア	近藤 聡
ジャッジ	駒田 文雄		石橋 徹也

阿須・第4試合 男子1回戦

関西学院大学 4 { 3 - 0 } 1 聖泉大学

<得点>
 関西学院 25分・#25林 27分・#8中島35分・#2松田39分・#14小山
 聖泉 49分・#3松本
 <戦評>

関西学院のセンターパスにより試合が始まる。試合開始早々、聖泉がPCを獲得するもゴールならず。対する関西学院も10分にpcを獲得するがこちらもゴールまでは至らない。この後、PC獲得により勢いづいた関西学院のペースで試合が展開される。25分、関西学院#25の放ったリバースシュートが決まり先制点となる。続く28分、関西学院がPCを獲得し、これを#8がゴール左下にフリックシュートを突き刺さし追加点を得る。2点ビハインドとなった聖泉も相手サークルまで攻め込むがなかなかゴールまで至らない。33分、PCより関西学院#2がリバースシュートを決め3-0で前半終了となる。
 後半開始早々、関西学院#14がグリーンカードで退場。これにより数的有利となった聖泉が相手陣内に攻め込み、5分にpcを獲得。しかし、pcを防がれ逆に関西学院のカウンターとなり、#2のセンタリングを#4が押し込んで追加点となる。その後、両者譲らぬ展開となる。10分、聖泉がpcを獲得しこれを#3がフリックを決め得点する。この後も拮抗した展開が続き、どちらも相手サークル内まで攻め込むがキーパーのファインセーブにより、得点することなく4対1のまま試合終了のホーンが鳴り響く。この結果関西学院が明日の2回戦へと駒を進めた。

TO	寺田 一夫	アンパイア	水谷 吉男
ジャッジ	野澤 光代		山下 拓郎

阿須・第5試合 男子東西交流戦

西日本選抜 1 { 1 - 2 } 4 東日本選抜

<得点>
 東日本 3分#13吉村 5分#20浜辺 51分#20浜辺 64分#9渡邊
 西日本 13分#2毛塚
 <戦評>

しとしと雨が降るなか高らかな笛とともに交流戦が開始される。東西の威信をかけた戦いは開始3分に関東がPCを獲得し作戦を合わせる時間もないなか、なんと素晴らしいコンビネーションにより#13吉村のスィープが綺麗にゴールに吸い込まれ先制。その後も関東#13吉村を中心に長短織り交ぜたテンポのよいパス回しで関東がペースを掴みゴールに迫る。対して関西は個々の高い技術力を武器に関東DF陣を切り裂き関東を慌てさせるがゴールには今一步辿り着けない。
 再び関東はPCを獲得し#9渡邊の強烈なヒットがバックボードに突き刺さり会場に轟音を轟かせる。そして前半中頃関西がPCを獲得。関西でその名を轟かせた#2毛塚のフリックがキーパーの手を弾き飛ばしゴールへ収まり一点を返す。
 そして後半がスタートし双方とも気合い十分の状態で行き進んでいく。10分頃関東は右めぐりから中へ折り返し#西川へ。無人のゴールが広がるなか#西川の放ったシュートはゴール左をかすめ裏のコンクリートに激突し虚しくもコートに跳ね返ってくる。その後も関西は#5#7を中心に攻めるが関東も譲らず試合は進む。しかし関東は2点を加え3点にリードを広げ突き放す。
 終盤なんとしても追い付きたい関西はキーパーを替えキーパーの権利を有すフィールドプレイヤーを投入し猛攻を重ねる。しかしGK#2高吉が好セーブを重ねゴールを死守しそのまま試合は終了する。今年度もおもしろい試合が見られた。来年度の交流戦にも期待したい。

TO	越湖 隆一	アンパイア	大西 揚士
ジャッジ	浅野 久雄		渡邊 道彦

駿河台・第1試合 女子1回戦

駿河台大学 5 { 3 - 0 } 0 東京農業大学

<得点>
 駿河台大学 2分・#10大野 3分・#24尾関 23分・#3山本 46分・#13田中 50分・#7小杉
 東京農業大学
 <戦評>

駿河台大学のグラウンドにて、第31回全日本大学ホッケー王座決定戦のオープニングゲームが駿河台大学のセンターパスにより始まった。試合開始早々、駿河台の#10大野がサークルインシロ火を切ると、2分に打ち込みに反応した#10大野がタッチシュートを決め、先取点をあげる。すると1分後にも#24尾関が東京農業のゴールネットを揺らし、開始3分で2点を先行することに成功する。その後も一方的な駿河台のペース。5分に#15鈴崎のリバースの打ち込みでチャンスを作ると、直後には#4高橋のスィープからタッチシュートを放つも枠をとらえきれない。さらに13分にはこの試合はじめてのPCを駿河台が獲得し、それを#16小川がヒットシュートを放つも、ここは東京農業のディフェンスがしっかりとコースに入りゴールを割らせない。その後も駿河台は右サイドで細かいパスを使う場面と、打ち込みの長いパスを使う場面を使い分け、緩急のある攻めを展開する。この状況を打破したい東京農業は長いヒットを駆使するもなかなか通らず、流れを断ち切ることができない。すると23分に駿河台がPCを奪い、それを#3山本がスィープで直接ゴールを決め、3-0とする。その後もPCを獲得するなど、前半は駿河台が完全にゲームを支配する展開となる。
 後半なんとかして得点を返したい東京農業は#9嵯峨野を中心に攻めを組み立て、反撃に転じる。対する駿河台も#17武井がヒットでシュートを打ち、後半もチャンスをつくる。負けられない東京農業は43分に#13川又の打ち込みで敵のゴールに迫るも、わずかに合わない。序盤に一進一退の攻防を繰り広げ、反撃の兆しを見せた東京農業だったが、44分にPCを与えてしまう。一度は防ぐものの、再びPCとなり、そのPCのリバウンドを#13田中が押し込み、後半も先にゴールをあげると、ここからさらに駿河台が猛攻をしかける。すると50分こぼれ球に#7小杉が体ごと飛び込み、5-0とさらにリードを広げる。その後も61分に#24尾関が鋭いヒットを放つなどチャンスを作り、終わってみれば70分間、駿河台が終始自分たちのペースでゲームを展開する内容となった。

TO	平沢 美由紀	アンパイア	岩本 明大
ジャッジ	竹内 芳郎		山田 恵美

駿河台・第2試合 女子1回戦

慶應義塾大学

2 { 1 - 2 / 1 - 3 } 5

関西学院大学

<得点>

慶應義塾大学 16分・#7井川 65分・#15高須

関西学院大学 10分・#10山本 24分・#18佐野 59分・#10山本 60分・#9西堀 68分・#16今井

<戦評>

霧雨が降りしきる中、第31回全日本大学ホッケー王座決定戦の第2試合目が始まった。序盤、関西学院がドリブルを駆使し攻めると、2分にPCを獲得する。ヒットでシュートを試みるもわずかに浮き、ゴールとならない。しかし関西学院が徐々にペースを握り始めると、10分に#10山本が決め先制点をあげることに成功する。早い時間に1点を奪われた慶應だったが、慌てることなくゲームを展開すると、15分に#7井川がハーライン付近から一気に持ち込み、そのままキーパーの足元を抜き、同点ゴールをあげる。しかしその後再び関西学院が流れを引き戻すと、#16今井がサークル内でシュートを放ち、さらに#13石田が詰めゴールの予感を漂わせる。すると24分に#18佐野がヒットでゴールを奪い、再びリードし、このまま関西学院のリードで前半を終える。
後半#4上原の退場により、慶應の数的不利の中ゲームが始まると、関西学院が空いているスペースを生かし、ペースを握る。すると39分から立て続けにPCを獲得し、さまざまなパターンからゴールを狙うもここは慶應の気持ちの入ったディフェンスにより、得点を与えない。すると47分に慶應が初めてのPCのチャンス。これを#2柴戸がプッシュで狙うも関西学院のGK馬場に阻まれる。対する関西学院も59分にPCのチャンス。そのPCを#10山本がヒットで決めると、その直後にもゴールを奪い、4-1とリードを広げる。対する慶應も65分に#15高須が飛び込み1点を返すものの、流れは変わらず。関西学院が68分に再びPCから得点を奪い、5点目をあげる。両チーム点の取り合いは関西学院に軍配。そして関西学院の2回戦進出が決定した。

TO	清水 恭子	アンパイア	塚本 善士
ジャッジ	大野 隆司		松村 満

駿河台・第3試合 男子1回戦

富士大学

2 { 0 - 3 / 2 - 5 } 8

明治大学

<得点>

富士大学 37分・#3太田代 42分・#4石垣

明治大学 7分・#2岡崎 10分・#2岡崎 23分・#9松尾 39分・#10安部 46分・#7小櫻 54分・#10安部 58分・#19松本 60分・#7小櫻

<戦評>

第31回全日本大学ホッケー王座決定戦の男子の部が駿河台大学のグラウンドにて行われた。試合は開始早々明治が2点を奪い、完全にペースを握る。しかし15分にイエローカードにより、明治の#14市橋が5分退場処分となる。すると富士が攻めに転じ、18分に富士がPC獲得。このチャンスを#3太田代が強烈なフリックで狙うも、クロスバー直撃とわずかにゴールに結びつかない。対する明治も22分にPCのチャンス。このPCを#16宮下がフリックを放ち、その後のリバウンドで再びPCを獲得し、それを連携から#9松尾が決め、リードを広げる。しかしあきらめない富士はその直後PCを奪う。さらに明治の選手がフライングを犯し、数的有利となるも、決めきれずにいると、カウンターから明治がPCをすぐに奪い返してみせる。しかしこのPCも得点に結びつかず、そのまま明治の3-0のリードで前半を終える。
後半もハイペースの試合展開を見せる。37分に富士がPCにて#3太田代がヒットでシュートを決め、富士が巻き返しを図る。このままペースを譲るわけにいかない明治は#23大嶋がカウンターからタッチを狙い、ゴールへの意識を高めると、その流れから39分に#10安部がゴールを奪う。対する富士も42分PCを獲得し、#4石垣粘り強くリバウンドを押し込む。これが見事ゴールとなり、4-2と差を縮めることに成功する。このまま流れをつかみたい富士だったが、46分にPCを与えてしまい、それを明治の#7小櫻に決められ、リードを広げられてしまう。するとここから明治ペースとなり、60分までにさらに3点を加え、明治が圧倒的な攻撃力を見せる。富士も打ち込みたばかりの攻撃を試みるも、そのうち試合終了となり、明治が次のラウンドに進出を決めた。

TO	馬場 治男	アンパイア	湯澤 健人
ジャッジ	平沢 美由紀		小原 直也

駿河台・第4試合 男子1回戦

東京農業大学大学
生物産業学部

1 { 0 - 2 / 1 - 4 } 6

慶應義塾大学

<得点>

東京農業大学 57分・#10早坂

慶應義塾大学 18分・#15谷 22分・#25岡田 45分・#11川上 48分・#25岡田 60分・#14飯高 70分・#25岡田

<戦評>

すっかり雨もやみ、涼しい気候のなか第31回全日本大学ホッケー王座決定戦の第4試合目が行われた。序盤は慶應のスピード感あふれる攻撃で主導権を握る。対する東京農業は#2矢ノ下のスクープで対抗する。そんな中11分に慶應がはじめてのPCを獲得する。これを#25岡田が左下を狙うも、わずかに枠をとらえきれない。対する富士は15分に#21佐々木のインターセフトから、#10早坂が持ち込みシュートまでもってく。しかしここは慶應GK草薙の堅実なセーブでゴール割らせない。
その慶應は18分にもPCのチャンス。こぼれ球を#15谷が押し込み先制する。勢いに乗る慶應は22分に#8松谷の突破からPCを獲得すると、#25岡田がフリックでゴールを狙う。一度は防がれるも、リバウンドを落ち着いて#25岡田が流しこみ序盤で2-0とリードする。さらに慶應は終了間際にもPCのチャンスを奪うが、ここは得点に結びつかず、前半が終了する。
後半最初にチャンス作ったのは慶應義塾大学。38分に#14飯高の突破からPCを奪い、それを再び#25岡田が狙うも、GKの正面。追加点をあげることができない。さらに慶應は45分にも#15谷のスピードに乗った突破からPCを獲得する。これはゴールに結びつかないが、直後に打ち込みから最後は#11川上が触り、後半も先にゴールを奪う。その慶應は48分にもPCのチャンス。このPCを#25岡田がフリックを左下に突き刺し、4-0とさらにリードを広げる。維持を見せたい東京農業は57分にPCを獲得し、これを#10早坂が決め、1点を返す。ここから反撃したい東京農業だったが、60分にPSを与えてしまう。このPSを慶應の#14飯高が落ち着いて決め、奪われた得点をすぐに取り返すと、終了間際にはPCを得る。これを慶應の#25岡田が冷静に押し込み、本日3点目。見事ハットトリックを達成する。そして得点と同時にホーンがなり、慶應義塾大学の勝利が確定した。

TO	鯨井 暢	アンパイア	柳本 主貴
ジャッジ	竹内 芳郎		木下 英貴

<得点>

西日本選抜 9分・#5赤座 53分・#5赤座 64分・#3奥村 67分・#14藪内 68分・#21廣瀬
東日本選抜

<戦評>

ここ駿河台グラウンドにて、東日本と西日本の顔ともいえる選手たちの熱い戦いが繰り広げられた。最初のチャンスは東日本代表。7分に#9西村がチャンスを作るも味方とわずかに噛み合わず、シュートまでもっていくことができない。すると西日本はその直後の9分に#5赤座が決め、待望の先制点をあげる。その後も西日本ペースで試合が進むが、東日本も粘り強いディフェンスで簡単にはサークルインさせない。すると徐々に流れは東日本に傾き始める。ただ持ち前の個人技で確実に自分たちのボールにするも、こちらもあと一歩攻めきることができない。両チームとも攻め手を欠いたまま後半をむかえる。最初にチャンスを作ったのは、東日本代表。39分にPCを獲得し、#20金原がヒットを放つも、ミートせずゴールとならない。対する西日本も42分にPCを奪い#21荒野がシュートを打つも、わずかに浮き、こちらもゴールとならない。その後も西日本は#21廣瀬を中心に攻めるものの、追加点を奪うことができない。この膠着状態が破られるのは53分。西日本の#5赤座が見事なタッチシュートを決め、西日本が2-0とリードを広げる。その後西日本がさらに1点を追加し、むかえた67分。#14藪内がこぼれ球をしっかり詰め、4点目をあげると、その1分後にPCを獲得。するとそのPCから#21廣瀬の鮮やかなタッチシュートが決まり5点目。そしてまもなくホーンがなり、試合終了となった。勝負は西日本代表の勝利となったが、両チームとも各大学の代表に恥のない熱い試合を見せてくれた。

TO	清水 恭子	アンパイア	栗原 崇
ジャッジ	北島 学		高岡 寛

以上